

1 特別活動における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

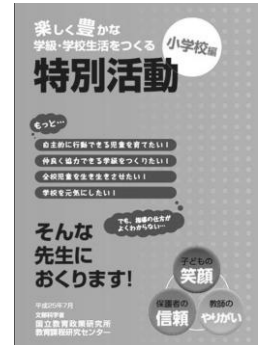
(1) 教員向けリーフレットの戦略的、積極的活用について

① 作成の趣旨・特活の意義の確認

特活は、子どもたちの自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめや不登校などの問題に対する予防薬的な役割を果たすなど、子どもたちの成長に欠かせない大切な教育活動である。

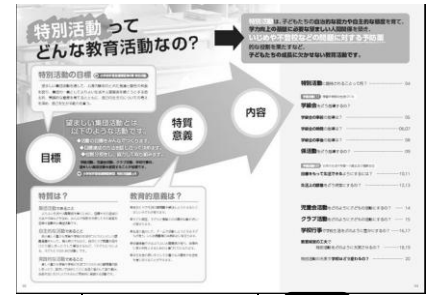
しかし、近年、全国的に若手教員の増加傾向が見られるとともに、特活には教科書等の基礎的な資料がないことなどから、先輩教員からの指導技術の継承が円滑に行われなかったり、特活の教育的意義が十分に理解されていなかったりするなど、特活の時間が必ずしも効果的に活用されていないという課題が散見される。

こうした状況を踏まえ、本リーフレットでは、特活の教育的意義を端的に示すとともに、実際の授業で指導する際のポイントを分かりやすくまとめている。今後、各小学校で本リーフレットが有効に活用され、効果的な特別活動が展開されることが期待されている。



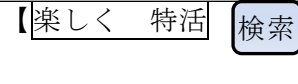
② 主な特徴（内容については別紙リーフレットを参照）

- ・ 特別活動の目標や教育的意義を明記
- ・ 指導のポイントを見開きページで紹介
- ・ 図やイラストを活用し、視覚的な理解のしやすさを意図
- ・ 板書例を基に指導の流れを解説



③ 配送、配信について

- ・ 7月中に各小学校へ2部ずつ配送済み
- ・ 国立教育政策研究所 Web ページにて pdf データを提供中。



(2) 学級活動(1)の指導について

① 特別活動の全体計画及び各活動・学校行事の年間指導計画に沿った実践と計画の改善

校内での指導体制を整えるのが重要なポイントとなる。学校の実態に応じて、全職員の共通理解の上で実践するために、重点化、焦点化を図る。

② 全職員での共通理解

- ・ 学校はチーム（集団）でなければ解決できない問題を解決するところである。さらに児童会等、子どもも参加させて、全員で同じ方向を向いて取り組むことが大事になる。
- ・ 前提として、児童も、先生自身も「私は」を主語に発言することを大事にしたい。その上で、「私たちは」と集団で同じ方向を向いて歩くことを目指す。
- ・ 4月、偶然一緒に学ぶことになった児童たちが、問題を見つけて解決する活動を通して、プライド（「私たちの学級！」意識）を持つことができるように学級経営を行いたい。
- ・ 教師、保護者、校長、子どもの願いをもとに学級目標を決める手立ての共有化を図る。教室経営と積極的に関連させたい。ただし、具体目標を達成したらビー玉を貯める、忘れ物チェック表、家庭学習提出表、掃除マスター（レベル）表など、学級経営としつづけて混同している例が散見される。いじめを生み出す指導とならないよう留意する。

③ 学級活動(1)の指導計画

- ・ 年間計画での学級会の議題は、「予想される」議題として大まかに示す。児童の発意を大事に選定されるべき学級会の議題が、年間計画に入って決まっていることが散見される。
- ・ 1単位時間の指導計画には教員の指導計画だけでなく子どもの「活動計画」を必ずつける。

④ 学習規律、集団規律の確実な指導

- ・ 基本は自治を目指すのが、それ以前に教師が秩序を確立することが必要（＝学級づくりの力）。

## 小学校 特別活動

- ・ いじめ問題に対して過剰に反応して、みんな仲良く、を目指すだけの指導が散見される。自治の前提として、教師が「ならぬものはならぬ」の徹底を図る必要がある。場面によっては気迫をもって指導し、児童と対決したり、いやでもやらせたりする指導も必要となる。規律が徹底したところで、任せられるところはしっかり任せ、自分たちの生活を自分たちでよりよくしようとする力を育てる。
  - ・ 学校には分かる授業、良い生活が求められる。特に生活面の指導は特活の役割となる。はじめは教師が指導を徹底するため、児童は「～させられる」という意識を持ちやすいが、次第に児童が「～したい」と願うように、よりよい生活を目指そうとする内発的動機付けを大事にして指導する。
  - ・ 教育とは、児童に対して期待し、要求し、潜在能力を引き出して、付加価値を付けることである。“education”を「教授」でなく「教育」と訳した先人の思いをぜひ考えてほしい。
- ⑤ 話し合う力の系統的な育成
- ・ 6年間を見通して、話し合って合意形成を図る（折り合いをつける）力を育てる。学級会の話合いは、相手を言い負かすディベートではない。賛成・反対ではなく、理由を基に聞き合い、建設的に話し合いで解決する力を育てたい。東日本大震災時の避難所での合意形成を見習いたい。同調圧力は、自分と違う意見、嫌いなものを排除するいじめにつながる。
  - ・ 話し合いは、「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる、決定する」の流れを大切にする。「比べ合う」は「分かり合う」と解釈し、理由を比較する、という視点を大事にしたい。
  - ・ 短時間で効果的な話し合いを行わせるために、意見を短冊に書いて黒板に貼り、操作して整理、分類する手法などの工夫が各地で行われている。
  - ・ 話し合いの際は前提となる「決まっていること」はしっかり揭示し、視点を意識した話し合いを行うよう、事前に計画委員会等を丁寧に指導しておくことが重要。
  - ・ 特活での言語活動の中心は、子どもの **output**（拡散）を大事にした話し合いである。一方で、形骸化した話し合いの傾向も一部に見られる。思考力、判断力、表現力に直結する、思考を収束させる話し合いの工夫も期待したい。
- (3) 道徳教育、生徒指導、キャリア教育等との関連
- ・ 個性の伸長という観点からは「みんな違ってみんないい」だが、安易に個性の教育と共生の二項対立にせず、「集団の一員として」の健全な自尊感情を育みたい。
  - ・ 特活は道徳的実践の核。道徳の時間は幸せになるためにどうしたらいいか考える場であり、特活は幸せになるには何をすればよいかを考え、実行する場である。  
(道徳教育を補充・深化・統合すべき道徳の時間の充実には、特活の充実が前提になる)
  - ・ 道徳教育には態度形成が期待されている。特活は実際の体験や実践活動を通して、話し合って実践することを決め、実行し、振り返る場。しっかり実践を振り返って、道徳的実践を実感できるように取り組みたい。
  - ・ 学力向上に特活、という研究も増えてきている。特活は学力の基礎となる集団づくりを担っている。実際に各地で特活に取り組んで学力が向上した、というデータが多数ある。
- (4) 小中連携
- ・ 小学校でやってきたことを中学校につなげる。
  - ・ 話し合いの力、指導法までどうそろえるかが大きな課題。

### 参考資料

初等教育資料：平成 25 年 4 月号 P.48～65（特集Ⅱ 日本型の教育としての特別活動）

文部科学省：「言語活動の充実に関する指導事例集」

国政研：「楽しく豊かな学校生活をつくる特別活動 小学校編」（教員向けリーフレット）